

海のいのち

立松 和平

めあて

太一の心が変化するクライマックスの一文を見つけよう。

母の言葉

- ・おそろしくて夜もねむれない
- ・おまえの心の中が見えるようで
- 太一の様子
- ・母の悲しみさえも背負おうとしていた

・おとうのかたきをうつ

- ・おとうの瀬にもぐるんだ。
- ・かたきをうつ

○この大魚は自分に殺されたがっているのだと太一は思ったほどだった。

○これまで数限りなく魚を殺してきたのだが、こんな感情になったのは初めてだ。

○水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。

○もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かつてもう一度えがおを作った。

・太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。

ここには、子どもが発表した文を書きまします。書き出したうえで、思いが変化する部分を児童に議論させます。

5/11 時間目 指導略案

使用するワークシート：⑤

活動のねらい

「転」の部分を読み、太一の言動から心情の変化をとらえることができるようにする。

1 本時の見通しをもつ。

○めあてを確認し、太一の心情の変化をとらえて、クライマックス部分を見付けることを確認する。

2 本文七十七ページを読み、母の思い、太一の思いを考える。

- ① 母の思いから推測される太一の思いを考え、変化する前の心情（父のかたきを討ちたい）を共通理解する。
- ② 太一の思いと八十二ページ一行目の文を比較して、心情の変化があったことを確認する。

3 本文七十八ページ一行目から八十二ページ三行目までを読み、物語のクライマックスを見付ける。

- ① 太一の心情が読み取れる叙述に線を引きながら通読する。
- ② 線を引いた部分での太一の心情を考えながら、心情が変化するクライマックス部分の一文を見付け、その理由とともにワークシートに書く。

4 クライマックス部分について話し合う。

- ① 自分が選んだ文とその理由を、ペア又は少人数グループにおいて発表する。
- ② 自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、変更や追加があればここで修正させる。
- ③ 全体でクライマックス部分について話し合い、一番適切なものを決定する。
- ④ 選んだ一文を発表させ、いくつかの候補に絞る。
- クライマックス部分だと考えた理由を述べ合い、一番適切な一文を話し合う。

評価 物語の構成における「転」の場面から、太一の心情の変化を読み取り、クライ

マックス部分をとらえることができる。

5 学習を振り返り、自己評価をする。